

電子データで手軽に出来形管理

～管理諸表作成支援システムの紹介～

Quality Control System for Construction

佐藤 隆雄
Takao SATO

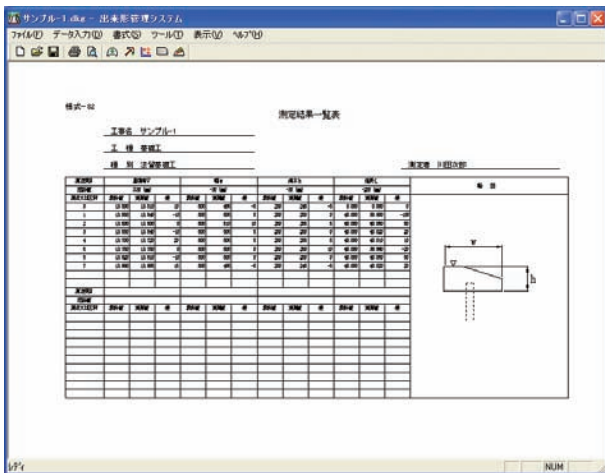
川田テクノシステム株式会社
開発二課課長

これまで施工管理における出来形管理諸表の作成は、専用ソフトもしくは表計算ソフトなどを利用して行われてきました。また、基本的に成果は紙であり、最終的に管理資料や提出書類の一部として用いられてきました。

ところが昨今の電子納品の普及に伴い、関連する写真や図面も電子データ化が進み、出来形管理諸表を作成するにあたって、これらの電子データを有効利用できる環境が整いつつあります。今回これらの電子データと連携した「出来形管理システム」を開発しましたので紹介します。

システムの概要

本システムは、公共土木工事の施工時における出来形管理諸表の作成を支援するものです。マスターデータとして各発注機関の「出来形管理基準及び規格値」と測定位置を示す「略図データ」などを用意しています。工種を選択すると規格値や測定位置の略図が自動的にセットされ、各工種の設計値・実測値を入力するだけで、出来形管理諸表を出力することができます。

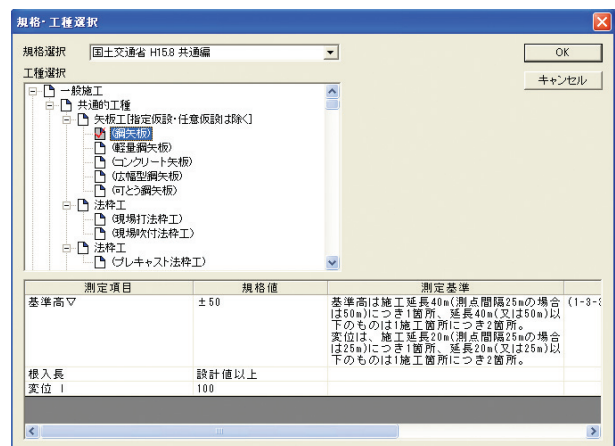


メイン画面イメージ

主な特長

(1) 豊富なマスターデータ

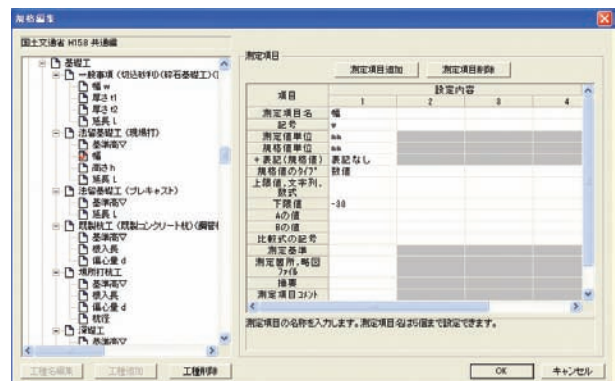
国土交通省はじめ各発注機関の規格値や略図、帳票の書式などをマスターデータとして装備しています。



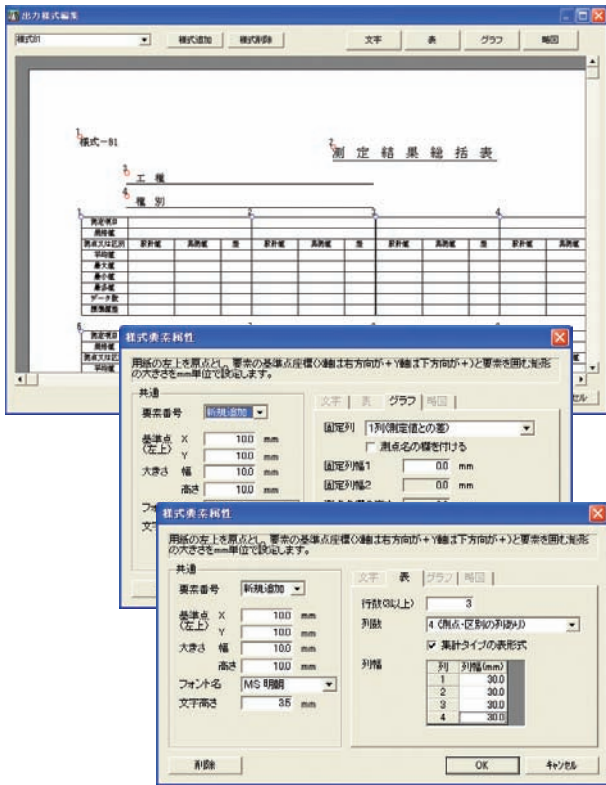
登録工種選択イメージ

(2) 柔軟な拡張性

登録済みのマスターデータに該当する規格値や略図、帳票の書式が存在しなかった場合は、ユーザが任意に編集・定義を行い登録することも可能です。



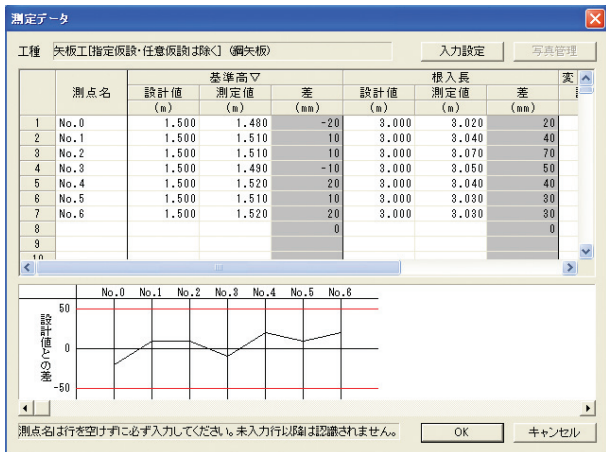
登録工種選択イメージ



帳票書式編集イメージ

(3) 容易な表形式での入力

メインとなる入力は表形式により各項目のグラフも参照しながら、容易に入力できます。また、縦方向・横方向の切り換えも自由に行うことができます。



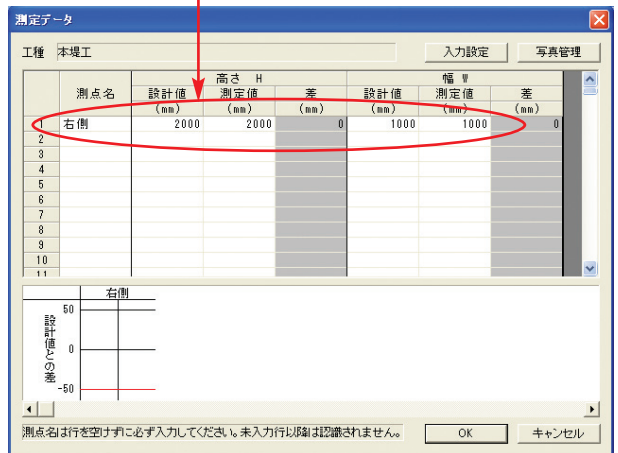
データ入力イメージ

(4) 関連データとの連携

出来形については、管理諸表に加えて写真の管理も必要ですから、並行して行われることが多い作業となっています。したがって入力する項目も共通なものも多く、一方で入力したデータが他方でも使用できれば手間が省け、より一層の効率化が図れます。

本システムでは、関連する写真管理ソフトから参照しながらの入力や、共通のデータをやりとりすることも可能としており、作業の効率化に寄与しています。

また測定位置を示す略図は、各発注機関の基準に示されている図をマスターデータとして標準装備していますが、関連するCADソフトで作成されたデータも自由に取込みことができます。帳票イメージを図面の一部として扱う場合も想定し、CADデータとしての出力も可能としております。



写真とのデータ連携イメージ

おわりに

ここでは出来形管理システムについて紹介しましたが、今後は施工管理全般（出来形管理、品質管理、工程管理等）について、流通データの電子化が普及することを見据えたうえで、相互連携を深めたより効率的なシステムの開発に取り組んでまいります。